



く せ ん 薫 泉

学校の目標
社会の変化に自ら対応でき、豊かな心をもち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。
・よく考え、進んで学習する子ども
・いつも元気で、じょうぶな子ども
・こころ豊かで、やさしい子ども

「当たり前」のこと

副校長 中村正人

新緑の時期を迎え、いよいよ五月が始まります。学校現場では昨年度から延長されている、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のひとつとして、学校が休校となっております。普段でしたら活気に満ち溢れているはずの学校ですが、人影もなく、ひっそりとしています。私は今年の四月に矢口小学校に赴任したばかりで、始業式と入学式で少しい時間でしたが、児童と顔を合わせることができませんでした。

私自身、これだけ長い期間、学校が休校して児童に会うことができなかったことは今までにありませんでした。このような状況になり、改めて、今まで当たり前のように繰り返されていた日常生活がいかに大切であったかに気付かされます。

大田区では、四月当初、分散登校を予定してまいりました。しかし始業式と入学式を迎える直前になり、四月二十四日までの臨時休校、そして、その後、五月六日まで休校が延期されるなど、保護者の皆様にもご心配とご負担をおかけしました。その一連の中で、心に残ったことがあります。

それは入学式を翌日に迎えた日曜日のことです。昼過ぎに校長先生から私のもとに連絡が入り、体育館で予定されていた入学式を校庭で行うように大田区から指示が出た、というものでした。その前にも急に休校が決まって、校内で対応策を話し合った直後の決定でしたので、とても驚きました。連絡を受けて学校に到着したのは夕方近くでしたが、既に何人かの教員は学校に来ていて、廊下にシートを貼ったり、当日、配布する資料等を入れ替えたりしていました。

その他にも、休校中の課題や新しく配布される教科書の受け渡しも区から指示されたので、できる限り滞りなく受け渡しができるように、当日の流れを再確認し、入学式当日を迎えました。

一年生の保護者の皆様には、いくつかの規制を強いることとなりましたが、当日は天候にも恵まれ、無事、校庭で入学式を実施することができました。今年度、開催の形態は大きく変更されましたが、多くの保護者の皆様のご理解とご協力、そして、今までは「当たり前」のように行われていた教職員の先を見通した準備があったからこそ、四月六日に始業式と入学式が実施できたのだと思います。

今まで、何気なく過ごしてきた毎日の生活は、実は「当たり前」のことではなく、多くの方々の事前の準備や協力があって初めて成り立っていることに、改めて気付くことができました。その支えに感謝いたします。

今年度の取り組みについて

- ①すべての教育活動が新学習指導要領に変わります。たとえば、
 - ・三・四年生の外国語活動が年間三十五時間、五・六年生の外国語が七十時間となります。また、話す、聞く、読む、書くの四技能まで指導することになります。
 - ・特別の教科道徳となり、考え議論する授業を行います。
 - ・プログラミング教育を体験的な学習で行います。
 - ・キャリアパスポートを実践します。
 - ②矢口文化フェスタの名称から、より実態に合った矢口文化芸術劇場に変え、秋に学芸的行事を行います。
 - ③学び合い学習の中で、情報を受け取る、聞き取る力の育成に重点を置いて指導します。
 - ④体力向上・健康増進を目指した指導をします。
 - ⑤新型コロナウイルス対策で、今年度の遠足は中止といたします。また、その他の行事についても状況に応じた形となります。

生活指導より

生活指導部

「きまりを守ろう」生活指導部

例年ですと、およそ五百人弱の集団生活は初めてという一年生から、学校のことなら何でも知っている六年生までが、仲良く元気に新学期をスタートさせるはずでした。しかし、今回の新型コロナウイルスの蔓延により、楽しい学校生活がスタートできずにいます。一日も早い学校の再会を願ってやみません。

集団生活が安全で気持ちよく過ごせるように守ってほしいきまりが学校にはあります。生活のきまり、授業のきまり、健康や安全のきまり、給食のきまり、清掃のきまりなど集団生活ゆえにたくさん内容があります。

今月は、一つ一つのきまりを確認する月です。臨時休校中であるこの時間を使い、保護者の皆さんに昨年度にお配りしている「矢口スタンダード」をお子さんと一緒に読んで確認いただけたらと思います。学用品はもちろん、登下校時刻や忘れ物をした場合の取りにくるきまりなどご家庭に協力いただく項目もあります。来たる学校再開に向けて万全の準備をお願いします。